

令和4年度第1回常任委員会

令和4年8月3日(水)高松市総合体育館会議室

出席者 諸江・中筋・恒松・安藤・根岸・和田・松本・大槻・中村稔・田部井・下野・豊田・渡部・渡辺・笹田・竹内・前田・齋藤・福澤・吉田

1. 全国高体連専門部部 諸江部長挨拶

2. 香川県高体連専門部 中筋部長挨拶

3. 来年度開催地挨拶(北海道 福澤) 室蘭市栗林商会アリーナ、令和5年8月2日開会式、8月6日閉会式
再来年度開催地挨拶(佐賀県 仁部) 佐賀アリーナ(現在建設中)、令和6年7月23日開会式

4. 令和4年度高校総体について(高松市 前田)

- ・開会式参加選手の人数制限。
- ・レプリカは表彰と同時に渡す。

5. 第47回全国高等学校選抜大会(長崎県 笹田)

- ・3月24日(金)～26日(日)、島原復興アリーナ
- ・長崎空港から諫早経由島原鉄道で1時間20分、1日20本。会場から宿舎は10～15分で移動可。タクシー7社、台数は十分。
- ・選手、監督の宿舎は島原地域で確保。宿舎は斡旋ではなかった場合、遠いところになってしまい交通が不便なる可能性有。
- ・技術委員会も会場内、開会式は参加校から2名、可動式観客席で実施。
- ・開会式後1時間で可動式の椅子を片付けてピストを敷設、試合開始。男女エペ3回戦まで実施。
- ・16ピストと決勝ピスト(本部と反対側に設置予定)。ライトアップしてショーアップも今後検討。
- ・役員宿舎はシーサイド島原。
- ・レンタカーの斡旋あり。状況によっては練習会場から本会場までをシャトルバスを回すことも検討。

6. 令和5年度全国高等学校総合体育大会フェンシング競技(北海道 齋藤)

- ・常設観客席800、ランニングコースに200席、合計1,000席確保。
- ・練習会場 多目的室と2階スタジオ、武揚体育館、室蘭工業。
- ・1,890平米、45m×42mと手狭、選手・監督席を約150確保する関係でレイアウトを検討。
- ・実行委員会提示のB案のレイアウトで検討(選手監督席を右側に設置)

7. 議事

(1) 報告事項(和田)

1. 令和4年度全国高等学校総合体育大会
2. 第47回全国高等学校選抜フェンシング大会(組み合わせ抽選会2月10日(金)福井県福井市)
3. 令和5年度全国高等学校総合体育大会(北海道の担当者から説明あり)
4. 令和7年度以降全国高等学校総合体育大会
7年度中国ブロック島根県安来市。8年度近畿ブロック今年中には決まる予定。9年度南関東・10年度東海 検討中。
5. 令和4年度専門部前期行事報告(和田)
令和4年度第1回全国委員会(8月3日高松市)、第1回競技委員会(4月28日(金)岡山県岡山市)、第2回競技委員会(6月10日(金)愛知県名古屋市)
6. 競技委員会報告(松本)
第1回(令和4年4月28日岡山)

コロナ関係、エペ・サーブル出場枠増について

用具検査を即時返却、または当日返却、規定集を10ピスト展開に変更。その他必要事項の修正、今回のインターハイに適用。

選手紹介はベスト4から。

第2回(6月10日、名古屋)4月確認したことを最終決定。北海道の事項、長崎で新しい試み・新しいタイムテーブル等を検討。

違反と罰則 Pカード関係、学校対抗上下のジャンケンを廃止、カード作成。

7. 令和4年度前期全国高体連報告(根岸)

中学校が社会体育への移行、高体連も話題に上がる。

8. 令和4年度前期日本フェンシング協会報告(諸江)

沖縄合宿の件緊急理事会・総会での説明 合宿の目的により内容の違いがある。武井会長から説明。

直近の合宿(フルーレ・長野県)に登山を含んでいたりするためややピリピリピリピリしてる状況。

(2) 協議事項

1. 令和3年度決算報告(根岸)

収入 日本協会からの還付金なし(還付の計算が間に合わない)、全国大会高体連からのみ。

支出 臨時の委員会もあり支出増大。指導者研修会実施せず。選抜大会役員増員(20→30、単年度)。大会役員に保険。150万6277円のマイナス。

監査報告(竹内)

2. 令和4年度専門部行事予定(和田)

部報発行(第70号、8月、ウェブ掲載で予定)

後援行事 牧杯ジュニアフェンシング選手権大会が(9月24・25日、京都府大山崎町体育館)、第30回JOCジュニアオリンピックカップフェンシング大会(令和5年1月5日～8日、東京駒沢オリンピック公園総合体育館)

会議 第1回常任委員会(8月3日)、第1回全国委員会(8月4日)、第2回常任委員会(2月10日・11日福井県福井市)

令和4年度第2回全国委員会(3月24日、長崎県島原復興アリーナ)

役員会は年に2回実施

専門委員会 第3回の競技委員会(12月3日・4日、島原シーサイドホテル)

3. 強化普及事業(大槻)

令和4年度指導者講習会 全国委員会と監督会議で案内配予定。

将来高校現場の指導者を目指す大学生にも開放。

4. 予算案(根岸)

委員会費増額、保険料増額(役員の保険分)

5. 競技委員会提案事項(松本)

赤緑の腕章も選手を入れ替えないなので不要、安全ピンで留める腕章は4年～6年の間で周知、7年度から禁止に。

アプリケや縫い付け、マジックテープ式の剥がせるようなもので、この腕に密着してる形、剣が入っても外れるようなものであれば可、バンドみたいになってるものは引っかかると外れないので不可ということで考えている。

ゼッケンもルール上四隅だけではなく全部縫わないといけない。スナップで外れる様にするものは可。学校と名前がわかった方が、運営的にやりやすいのでゼッケンは必要。

6. 総務委員会提案事項(安藤)

現行規約規定集改定案 今回は規定のみの改定。

サーブル、エペサーブルフルーレ同様2名になったため同じように対応。

9ピスト展開想定をスタートから10ピスト展開できるように9から10に変更。

室内温度を26度に。

ピストの設置をハイブリッドピスト対応に

照明は視覚残像効果のあるものは避ける。(標記を簡素化)

ピストの補助設備 学校対抗用赤と緑の腕章の部分を削除。

予備用具準備のためのカゴ2個は現在使われていないので削除。

補助設備 事務局部分 コンピューター関係 コンピューター2台・プリンター2台 → 各3台(Twitterとホームページにアップ対応)

競技者及び参加 インターハイ部分 学校対抗チーム参加選手 3から5 → 3から4へ。

参加申し込みをした選手の変更について「選手がけが、また病気により大会に出場できなくなった場合のみ申請することができる。」の病気の後ろに「等」を加え、「のみ」→「に」変更。

個人対抗戦 各都道府県とも各種目2名へ。

全国選抜学校対抗 インターハイに合わせ参加申し込み部分をインターハイに合わせて修正。

組み合わせ方法 フルレに合わせて変更。(18プール対応)

新たに17条を追加 競技について 用具検査、判定基準の内容は(公社)日本フェンシング協会競技規則と本専門部決定事項を基に大会開催地と協議の上、決定するという文言を追加

(全国委員会を通さなければいけないということで対応が毎回後手に回ってしまい、決まったことが即大会のプログラム等に盛り込まれなくなってしまうタイムロスなくするため)

用具検査 10名→20名に(サブ個人対抗が増え人員が必要だろうということで)ピスト72名→80名(10ピスト展開に対応)

表彰物品 学校対抗の人数変更に伴う物品数の変更、個人対抗のメダルも3位決定戦がなくなったことへの対応。

毎日新聞社 → 読売新聞グループ本社、読売新聞杯

コピー機の記載追加 A3サイズ、pdf変換対応のもの

棄権が出た場合の規定変更 福井大会で規定を超えての棄権が出たため、運用したものを流用)。シード選手への対応追加。

選手・監督変更の文言、郵送先の記載変更(開催地実行委員会に全て郵送)

判定基準の抜粋 ボディコード 透明な素材の部分と穴を新たに追加。

7. 都道府県提案事項(根岸)

岐阜県 全国選抜大会の優勝校またはベスト4の学校にインターハイ出場資格を与えても良いのではないかと。(選抜ベスト4の都道府県は2枠に出来ないかと)

←インターハイは戦わなければ出場資格は得られないのではないかと、

優勝した学校がある県の他の高校は強いとは限らない。だからその県に与えるというのは矛盾する。

8. その他

抽選方法変更について(安藤)

現在は全て手作業、抽選方法の一部にコンピューターを使った抽選方法を導入してはどうか。

1つの種目代表男女合わせると94名の抽選を6回、手作業でやらなければいけない。さらに学校対抗、抽選の時間が必要になってくる。

時間短縮、人員の削減、予算削減にもなる。

検討検証を重ね、可能になった段階で抽選方法変更を提案したい。コンピューターと従来通りの手作業の抽選のハイブリッド方式の今後検討の承認を。

選抜含めて愛知の請井先生にお願いをする。

島原の全国選抜では16ピスト使用、同時使用は1回戦だけなので、2回戦からは間のものを背面に持ってきて背中合わせで使用したい。(笹田)

加盟校一覧完成。明日の全国委員会で配布。(和田)